

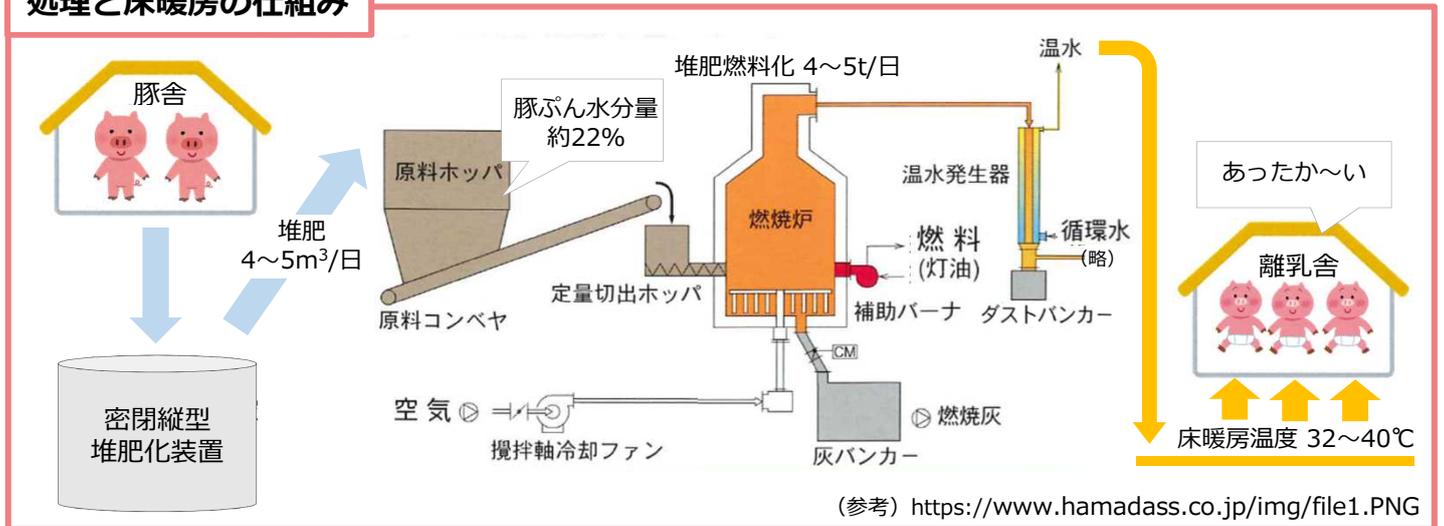
「床暖房施設を導入したい」「堆肥処理に困っている」方に バイオボイラーを用いた床暖房施設の事例を紹介します

令和3年8月 茨城県県北農林事務所

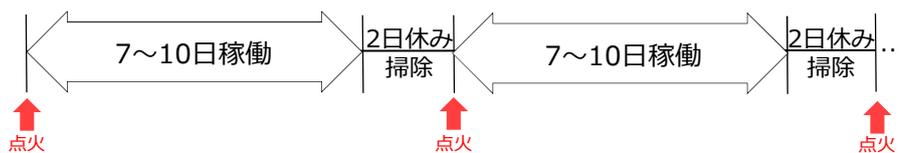


当該農家は母豚約600頭の一貫経営で、ボイラー設置とともに床暖房施設を有した離乳舎を新築し、昨年からはボイラーの本格稼働に取り組んでいます。今までは灯油を使用した床暖房施設でしたが、灯油のかわりに堆肥を燃料として活用できるバイオボイラーを導入しました。

処理と床暖房の仕組み



稼働の流れ



ボイラーの稼働期間は10月下旬~5月上旬



※本事例と同規格のボイラーを導入する場合、初期投資は約5,000万円。

事例農家における導入後の感想

- ・ 離乳舎の床暖房等により、子豚の発育のバラツキが減り、肥育期間の短縮につながった。
- ・ 堆肥を燃焼することで、体積が約1/10まで減量した。
- ・ 設備を自動化したことで作業効率が上がり、人件費削減につながった。
- ・ ランニングコストとして灯油代 (約7,000~12,000円/月・点火 約1,800円/1回)、電気代 (約6~7万円/月) などがかかるが、結果的に経費削減につながった。



興味のある方は、ご連絡ください。
茨城県県北農林事務所 畜産振興課 (0294) 87-6680

